

コートハウス G

生命は、いつも開放されたい欲求と包み込まれたい欲求を同時に求めている。雨と風の絶妙なバランス造りは建築家に求められている一つの使命でもある。

今回の「コートハウス G」は十字道路の交差点の真ん中に位置する環境である。必然的に四時中カーライトをまともに受ける事になる。まず最初にこれらの環境から遮断される必要がある。ロ型に閉じた配置の1/2づつの1型をギャラリー付きアプローチと住戸部分に組み合わせる。

外部を閉じた内部は思いきり開放。ゲート開

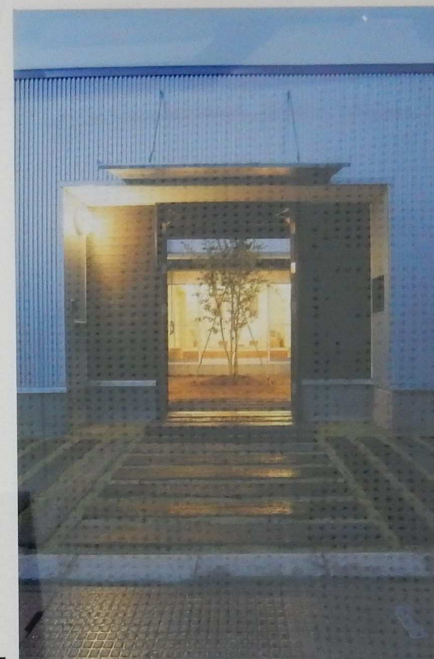
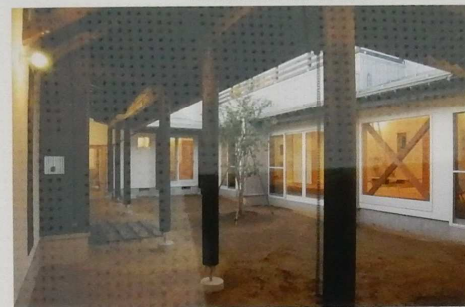
けるとコートに「命の樹」と太陽と青空、外と内をつなぐ象徴的なクロスポイントである。コートは子犬の遊び場であり、自然を満ちて感じる正に土間でもある。その延長上に土縁が室内まで続く。自然素材を多用した空間作りに徹することが出来た。

コートハウスは都市化する敷地に住もう人々にプライバシー空間を作り出し、内と外が同時共生する空間を提供する手法。「コートハウス G」はこれからの時代の我が家を守るひとつのスタイルとしての提案である



建屋全体はシンプルなデザインとする

コートは全て土の床。人間の足は土と自然と親しみ易い時代から製造主と人が触れるところである。「人はすべて人間の世帯を育み、屋で神聖のこころを思う」



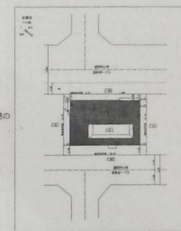
ゲートを開けると正面に土の樹(命の樹)が映えて、人間の住まう世界には、絶対なくてはならない要素でもある。



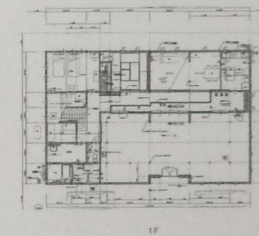
土縁は奥に行く程狭くなる。薄い縁が天井の梁と土の縁りと重なり、バスロウタイプに長く残せる



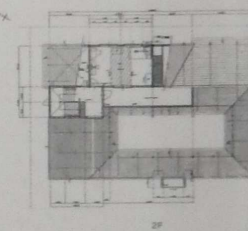
土と高い壁。コートの中央に植え込まれた命の樹。大きな空を取り入れた住まい。豪快である



コートハウスGは十字道路の交差点の真ん中に位置する。四角形の敷地に建つ。カーライトから遮断するために自然に求められたスタイルである



1F



2F



建屋全体のコートを写す



建屋から内へを望む。土間に緑地、奥に建物のタテと窓がある



建屋から内へを望む。土間に緑地、奥に建物のタテと窓がある